

卷頭言

『日本呼吸器学会誌』の役割

日本呼吸器学会和文誌編集委員長 服部 登
(広島大学大学院医系科学研究科分子内科学)



このたび『日本呼吸器学会誌』の編集委員長を拝命いたしました。この巻頭言にて、編集委員長の立場から考える『日本呼吸器学会誌』の担うべき役割と、その役割を全うしていくために必要となる皆様へのご協力の依頼、そしてそのご協力に応えるための編集委員会の方針について述べたいと思います。

和文誌である『日本呼吸器学会誌』の担うべき役割はいったいどのようなものでしょうか？私は以下の3点に集約されるのではないかと考えています。

- (1) 各種の呼吸器疾患の診療が抱える国内における問題点とその対策法などを啓発する論文、はたまた、国内の呼吸器疾患診療や研究に携わる医師や研究者が抱える課題や問題点などを指摘する論文をタイムリーに掲載することによって、これらの情報を日本呼吸器学会員へ日本語で発信するツールとなること。
- (2) 日本呼吸器学会員にとって、普段の診療ではなかなかお目にかかることのない、しかしながら留意しておかねばならない希少な呼吸器疾患やよくある呼吸器疾患の稀な病態を経験できる学びの場であること。さらに英文抄録を通して世界にもその内容の発信を行うこと。
- (3) 呼吸器疾患診療に携わる若手医師たちが経験症例から新規の知見を見いだすために必要なものの考え方を学んだうえで、それを症例報告として執筆し、投稿、査読、校正を経験して、論文作成の作法を学ぶ場であること。

これらの役割を担うために皆様をお願いしたい点とそれに対応する編集委員会の方針は、それぞれ以下のようになると考えております。

- (1) 呼吸器疾患の診療ならびにそれに携わる医療従事者や研究者が抱える問題を提議する原著論文の投稿を大歓迎いたしますし、そのなかで素早くタイムリーな情報発信が必要と考えられる投稿については、編集委員会として迅速な査読・審査を行うこともございます。
- (2) 希少疾患や稀な病態を報告する場合でも、単に“珍しい”というだけではなく、必ず何らかの新知見について論じていただけるようお願いいたします。その点が考慮・考察された症例報告の質は別格となりますし、編集委員会も新知見が考察されているかを重視して論文を選定していくことを考えております。
- (3) 日本呼吸器学会専門医資格取得のための論文投稿先として『日本呼吸器学会誌』を選んでもらいたいですし、論文作成の作法を学んでいただく場でもありますので、教育的指導に立った（いじわるではない）査読を行うことを心がけます。

すべての日本呼吸器学会員にとって、学びの場となれる雑誌であり続けることを目指して、これからも編集委員長として活動してまいります。皆様からのご協力を賜れることを祈念しつつ、この巻頭言を結びたいと思います。